

十三名の外国人自転車旅行者



夜自己紹介をしてもらおう。旅4日目にして初めてであったと聞いた。ヨーロッパの人はそういうことを会ってすぐしないことを知る。

五月中旬、知り合いの引率する十三名の外国人自転車旅行者を我が家に泊めた。田舎の家はふすまや戸をはずすと家中ひとつの巨大な部屋になるが、十三名の布団はさすがに大事であった。賑やかで騒々しく楽しくもあった。風呂は名田庄の「ご湯つくり」に案内した。非常に気に入ったようので帰国したら、たっぷりお湯の入るバスタブを自宅に作るという人までいた。

今年の秋も同じくらいの人たちが来たので、これで二回目である。今秋にもまた三回目のグループが来ることになっている。彼らがなぜ名田庄の田舎の家に泊まるようになったのか、そのいきさつや彼らの旅行の印象について書きたい。

旅行を企画し引率しているのは、十数年前、若狭高校や名田庄中学校で英語の補助教員をしていたイギリス国籍のナオミ・リンドフィールドさんである。彼女は私と共通の関心事があり（それらは登山であり仏教である）、小浜で生活している頃から家族を通じてたつきあいをしていた。

小浜で三年間過ごしたあと、彼女は中国、ネパール、インドと陸路で旅して半年かけて故郷のサルディナ島（イタリア）に帰った。旅の途中届いた絵葉書には、エベレスト

のふもとで母なる大地に対峙しているとあった。エコーツアーとかグリーンツーリズムとよばれている自然に親しむ旅行を企画する旅行代理店を自分一人で立ち上げたのはサルディナ島に帰ってしばらくしてからであった。これまでヨーロッパだけであった彼女の案内先が日本にまで広がった。それが昨年からはまった日本の田舎をまわる自転車旅行である。

インターネットに旅行の案内を出すと、それを見て人が集まる、それで団体ができた。したがって国籍はさまざまである。昨年は全員イギリス人であったが、今年はカナダとベルギーのカップル、あとがイギリス人、それにサポート役として車で後ろからついていくのが三田市在住のイギリス人。引率者のナオミさんを入れると計十三名のメンバーである。女性五名、男性八名、年齢も二十代の後半から五十八歳までと様々である。

彼らは関空に到着後京都まで電車、京都で二日間の観光をして、いよいよ自転車旅行となる。ナオミさんは小浜にいたるとき日本各地を自転車で行った経験を持っているだけに、京都から美山町、美山町から名田庄村と、ほとんど国道を通らずに行ける道を熟知している。美山町から名田庄村へは五波峠経由であった。

ヘルメットに短パン姿の外国人がマウンテンバイクに乗って山道を駆け下り、田のそばの道や海沿いの自転車道路を走る。昼食は走っていて適当な場所が見つかる場所でとる。彼らに、なぜこのような旅行に参加したのと訊いた。

「本当の日本を見たいから。自動車は速すぎる、自分はいつも自転車で通勤しているので自転車の速度が性に合っている。地元の人の生活が見られる、美しい自然がすぐそこにある、…」

どこに行っても美しく、人々は親切で親しみ深く、楽しい旅行をしている、と彼らは言う。日本滞在は二週間余り、職業は様々であったが（看護師、銀行員、人工衛星設計、不動産屋、家電デザイナー、フリーランサー）普通に暮らしている人が休みを取って自転車で日本を旅行している。帰ったらまたがんばって働くと言う。私は帰国後向こうから届くメールを楽しみにしている。

（二〇〇五年六月八日）